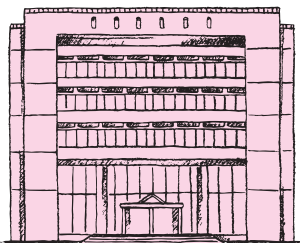


西南学院大学



図書館報

No.

153

2002.11



目次

- | | | | | | |
|--|----------------------|---|------------------|--------------------------|---|
| BushにBookを！ | 文学部長 武井 俊詳 | 2 | 最近「本」読んでますか？ | 法学部法律学科3年 檜崎雅衣子 | 5 |
| <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">みなさんに読んで欲しい本</div> | | | 大切なもの | ～セクシュアル・ハラスメント防止の手掛り～ | |
| 絵本に還る時 | | | | 文学部外国語学科フランス語専攻卒業生 立田健太郎 | 5 |
| ～私の場合はレオ・レオーニ～ | | | 日経新聞等の経済記事の利用法 | 経済学部教授 相模 裕一 | 6 |
| | 文学部国際文化学科教授 塩野 和夫 | 3 | 2001年度入館者および貸出統計 | | 7 |
| 「科学としての経済学」 | | | お知らせ・編集後記 | | 8 |
| | 経済学部助教授 市東 亘 | 3 | | | |
| 好きな本のこと | | | | | |
| | 文学部外国語学科英語専攻2年 井上真理子 | 4 | | | |
| 「塩狩峠」と出会って | | | | | |
| | 商学部商学科3年 橋本 慧子 | 4 | | | |



BushにBookを！

文学部長 武井 俊 詳

最近、新聞書評に引かれて、古川日出男著『アラビアの夜の種族』（角川書店）を買って読んだ。その初章に奇妙奇天烈な戦争回避策が出てくる。ナポレオンのエジプト遠征の情報を得た当時オスマン帝国の属州のエジプトの総督を戴く23人の知事（ベイ）の一人のイスマーイル・ベイは、絶大な信頼を置いている執事のアイユーブに対策を相談する。このアイユーブがもちだしたのが奇妙奇天烈な戦争回避策なのだ。なぜ奇妙奇天烈と形容したかは前掲書からの次の引用でご納得くださるだろう。紙面の制約上、部分的に割愛（…）を許されたい。

「わたしは思うのですが」とアイユーブは囁いた。「フランク族に武力で対抗しても、これは無駄かも知れませぬ。…。マツムークは無力かも知れませぬ。エジプトの騎馬部隊は。ならばべつ手段に訴えるしかないでしょう——」

「どんな手段だ？」

「古典的な方法です。きわめて古典的な方法です。連中には贈りものをして、フランク族の元来の土地に帰ってもらうのです」

…、イスマーイル・ベイは訊いた。「その代償はどれほどの金高となる？ フランス人を満足させるのに、いかほどの金銀財宝が要ると思うのだ？」

「金銀財宝でも、美女つきの宮殿でも、あるいは頒けあたえる土地でもありません」

「ほほう」戸惑いながら、さらにイスマーイル・ベイはひきこまれる。

「しかし美しい献上品です」

「美しいのか」

「いかにも極美です。そしてフランク族の軍勢にとっての破滅の原因となります」

「それはいったいなんだ？」

「それは書物でございます」

それはなんと書物。奇妙奇天烈な戦争回避策ではないか？ 本がどうして？ アイユーブの説明はこうだ。ファーティマ朝（909-1171）のカイロの話。同朝の教主アル・ハーキムは、わずか11歳で権力を握り強権を揮ったが、36歳で忽然と消息を絶つ。凄惨を極める差別や虐待の限りを尽くしたと言われるこのハーキムは、他方、学問好きで愛読家であった。ハーキムの政敵はそこに眼をつけた。同朝の図書館の蔵書百万冊超のなかから選びだされたのが、「古今東西稀代の玄妙驚異の内容を具えた物語集」で、ハーキムに献上された。

その書物の紐を解き読み出すとハーキムは、以降一日も倦まずに、寸暇を借しんで、政務も抛りだして、余所目にはほとんど茫然自失の態で、その物語の世界に没入、拳げ句はその物語に専念できる地を求めて何処へか消え去ったという。

アイユーブの目論みの根拠はここにあった。この誰をも没入滅入忘我忘務の境地（狂痴）に誘い込む本をナポレオンに献上し読ませる魂胆。しかし、いくら玄妙驚異の物語でもアラビア語。ナポレオンのエジプト侵攻が切っ掛けで日の目を見たロゼッタ石のエジプト象形文字の解読に成功したシャンポリオンなら読み解き耽溺するかもしれないが、ナポレオンにどうやって読ませる？ フランス語に翻訳？ しかし、翻訳に従事する者がこの玄妙驚異の物語に忘我忘務してしまうではないか。このミッション・インポッシブルを果たす秘策あたりからは、実際に『アラビアの夜の種族』に御自身で没入してみては？

ふと思ひ当たる。古今東西の古くは東、中国に「焚書坑儒」（秦の始皇帝による書物の焼き捨ておよび儒者の粛清）、近くは西のドイツのヒトラーによる焚書の例が何を物語っているかを。どうも、覇権に邁進するとき、書物は邪魔らしい。人を戦争に駆り立てようとする時、どうも本は妨げになるらしい。命令一下、唯々語々とさせるには、読書は御法度にするに限らしい。なぜか？ 1つには、忘我忘務の魔力。しかし、始皇帝やヒトラーは、その魔力よりも、人は読書をする、ものを思い、そうかなと疑い、こんな考えもあるぞと言いたくなる考察、反省、批判をする、それが疎ましいのだろう。事実、筆者は、『アラビアの夜の種族』のお陰で、ファーティマ朝を調べ、ナポレオンのエジプト侵攻に纏わるロゼッタ石などいくつかの挿話を確認し、「焚書坑儒」など故事来歴を改めて点検し、「悪の枢軸」の呼ばわりにまで思いを馳せ、派生的に、思わぬ多岐の書見に至ったのだ。

「近ごろは活字離れが著しい」との嘆きを聞いて久しい。「小説なんか読む暇があったら勉強しなさい」という声は何を奨めているのだろう。儒者の祖の孔子曰く「学而不思則罔、思而不学則殆」の前段は思考停止のあやうさを警告している。習ったことしかできない「指示待ち人」が多くなると、企業ぐるみ、お役所ぐるみの摺り替えはしやすくなる。

さて、今のアラブに、イラクにアイユーブがいるのだろうか？ いてほしい。そして、Bushにその玄妙驚異の本を、もしあれば！ ところで、Bushは愛読家だろうか？

みなさんに読んで欲しい本



絵本に還る時

私の場合はレオ・レオーニ

文学部国際文化学科教授

塩野 和夫

京都で大学生活を送った私がよく立ち寄ったのは、荒神口にあるヨルダン社である。店内に入ると左手に絵本のコーナーがあった。いつもは素通りするコーナーから、何を思っただけの日、一冊の絵本を手にしていった。それがレオ・レオーニの作品である。

大学生になるまでに、心の中の大切な多くを置き去りにしてきた。置き去りにしないとやっていけないように思えた。「あおくんときいろちゃん」は、あざやかな色だけで展開する。心の動きが、余計なものは何もなく、色だけで明快に表現されていく。そこには無垢な世界がある。それは私たちがどこかに置き去りにしてきた大切な一つに違いない。幼い頃、レオ・レオーニの作品に出会ったことはない。それにもかかわらず「還る」としたのは、彼の絵本が遠い日の純粋な思いを呼び覚ますからである。

ヨルダン社で最初に手にしたのは「フレデリック」である。仲間のねずみたちが冬に備え働いている中で、フレデリックだけはぼんやりしている。内的欲求に押し出されて、光を集め、色を集め、言葉を集め、心の世界を豊かにしている。大学四年生になり、同級生が就職を決めていく時に、貧しく差別されスラムの残る地域に私は転居した。それは、フレデリックとの対話から教えられながら、心の欲求に従った行為であった。

青年期の課題の一つは挫折からの立ち直りである。恐ろしいマグロに襲われた「スイミー」は、仲間の魚からはぐれてしまう。彼の心を覆う悲しみと孤独が、暗くうつろな描写によつて的確に描かれる。しかし、深い海の底で思いがけない出会いをする。いくつかの新しい発見はスイミーに元気と勇気と希望を与える。それは私たちの経験に重なる。だから、時に暗く時に輝くような描写に共感を覚えながら、どれほど多くの若者が「スイミー」から生きる勇気を与えられたことだろう。

読み手が変わると、本は全く新しい側面を示してくれる。これまで知らなかった広く豊かで同時に困難な世界に、大学生は出かけていく。どうすれば、若者はやる気を持って未知なる世界に出かけ、歩みつづけることができるのか。深く自身に立ち返り、元気を与えてくれる一つに絵本がある。青年期は絵本に立ち返る時でもある。



「科学としての経済学」

経済学部助教授

市東 亘

経済学の面白さは、結論の意外性と論理の完璧さにある。経済学の枠組で考えると、通説や常識とは全く違った結論が提示される事が多い。一見、提示された結論は受け入れ難いと思っても、その背後にあるロジックは非のうちどころがない。なぜなら、経済学は、与えられた最小限の仮定から、数学的または論理的推論を経て結論を導出するからだ。

そうした経済学の面白さを存分に味わえる書物が、経済学者スティーヴン・ランズバークの「ランチタイムの経済学」と「フェアプレイの経済学」である。

どちらもユーモアと機知に富み、誰でも楽しめるように書かれている。通常こうした万人向けの読みものでは、枝葉を省略することによって経済学の本質をも単純化してしまう場合がある。しかしこの本は違う。注意深く一行一行読むことによって、経済学を理解するのに必要な概念を正確に習得することが出来るといっても過言ではない。

どちらを読むにしても以下のことを頭に入れておいて欲しい。それは、経済学では、結論を導出する際に、提示された前提条件以外は用いないということだ。これが科学的中立性を目指している現代経済学の共通した方法論である。

例えば、「職責を果たす」ということが善であるという前提条件を置かなければ、物事の善悪を判断するのに一貫してその条件を用いなければいけない。職務を忠実に遂行するあまり、凶らずとも周りの非難の対象になることはよくある。その言い訳として、「私は職責を果たしてただけだ」という言い訳が許されるなら、盗むことが仕事の泥棒も等しく許されなければならない。もちろん、この意見は過激過ぎると皆さんは思うだろう。それは、泥棒の行為は許されないという判断を下す根拠が別にあることを意味する。その根拠を解明せずに自分の行為を正当化するのは、自分の言い訳にのみ都合良く原理原則を用いるダブル・スタンダードである。こうした二重規範は、経済学では許されない。

ここで紹介した本には、常識を覆すような経済学の面白い考え方が多数紹介されている。もし、皆さんがそれは過激過ぎる、それは例外だ、などと感じたら、もう一度自分が都合よく二重規範を用いていないか顧みて欲しい。そして、もし、二重規範を用いずに、論理的整合性を以ってここで紹介する本に反論を加えられたなら、それは、物事を系統立てて説明出来る新たな原理原則（前提条件）を見つけたことに他ならない。つまり、経済学者の仲間入りをしたわけだ。

みなさんに読んで欲しい本



好きな本のこと

文学部外国語学科英語専攻2年
井上 真理子

今秋、文藝春秋から本格ミステリ・マスターズの刊行が始まった。これから毎月おもしろい推理小説が読めると思うと、わくわくしてくる。ところが推理小説を食わず嫌いでいる人は案外多くて、これは大変残念なことだと思う。私の妹もそんな一人だ。しかし妹の場合、すぐに最後の章をのぞいて犯人の名前を見つけようとしているので、これは好き嫌い以前の問題かもしれない。母も目が疲れてくるとすぐに飛ばし読みをする。こんなことでは楽しめるものもつまらなくなってしまう。残酷だから、殺人が起こるから好きではない、という意見もある。確かにそうなのだけれど、推理小説の魅力はそんなものを軽々と飛び越えてやってくる。これは忘れられない、強烈な体験になる。

私が初めて推理小説を読んだのは、小学校2年生のときのことだ。町立図書館で「パスカピルの犬」を読み、世の中にこんなにおもしろい本があったとは、とショックを受けた。推理小説を読んでいるときの興奮は、事件の真相が明らかにされるときに一番高まるものだが、自分なりの推理を働かせながら読むと何倍もおもしろくなる。「十角館の殺人」を読んだあたりから、そういう楽しみ方ができるようになった。この綾辻行人氏の館シリーズは誰もが楽しめる作品として薦められると思う。

宝物の本は、推理小説ではない。宮本輝「草原の椅子」と萩尾望都の漫画だ。進路に迷っていた頃に「草原の椅子」を読んで、救われたような気になった。登場人物との共通点などなかったのに、胸にしみこんでくるような文章がいくつもあった。ちょっと開いたページから引用する。

「人生の大事に対して、結局は感情で対処した人間は、所詮、それだけの人間でしかないんや」こういう言葉があふれている。漫画だって読もうと思えば小説並みに真剣に読める。そして言葉に頼っていないぶんだけ、読むたびに新しい発見があるのもおもしろい。

「トーマの心臓」「ポーの一族」「百億の昼と千億の夜」を推薦しておきます。

読書なんてしてもしなくてもいいものだ。映画だって見ても見なくてもいいものだ。だからどうせするのなら、何か良いことがあるほうがいい。

「本ばかり読んでると、頭でっかちになる」と兄は言うけれど、私はそれでもいいと思う。真剣に読書をしたり、映画を見た記憶が私の中につまみついて、これが溢れだす日が来ればいい。私は推理小説が好きなので、この機会にその紹介をしました。



「塩狩峠」と出会って

商学部商学科3年
橋本 慧子

私たちの周りには様々な本がありますが、本との「出会い」によって私たちは様々な影響を与えられます。そしてその物語の主人公を通して、共感し、成長することができます。私に大きく影響を与えた本のひとつに、三浦綾子著の「塩狩峠」があります。時代背景がキリスト教徒が蔑視されていた明治であることに加え、主人公の信夫が大のキリスト教嫌いの祖母に育てられたこともあって、父、母、妹、そして愛する人など彼の周りの人々が信仰深い生活を送っているのに対し、彼はどうしてもキリスト教を受け入れることができませんでした。しかし、ある日結核で来る日も来る日も寝たきりの生活を送っている親友の妹を慰めの言葉も見つけきれないまま見舞った時、想像していた暗い病人の姿どころか明るい輝きにあふれた笑顔で迎えてくれたことは彼にとって驚きであり、心に残る出来事でした。そのことが頑なに拒んでいたキリスト教に対して興味へと変わるきっかけとなるのです。また、彼は幼い頃から死や罪についてよく考える少年であり、自分は人よりもまじめな人間であるという自負を持っていました。しかし、聖書には『義人なし、一人だになし』と書いてあるです。つまり人間の目から見ると、優れた人、劣った人と人々の間には差があるように見えるが、神の前ではみんな罪深い人間であるということです。彼はその言葉を知ってもやはり自負を捨てられませんでした。聖書の中の言葉をひとつ徹底的に実行してみたことにより、そのことに気付き、認められるようになり、考え方が一変するのです。その後彼は教会学校で先生をしたり、彼が勤めていた鉄道会社の集会で講演をする機会に恵まれ、彼の情熱的な聖書講義を聞いた多くの方は感動するのですが、題名にもなっている塩狩峠で運命的な事件が起きてしまいます。

この小説にはキリスト教の考え方や有名な聖書の言葉がいくつか出てきますが、決して堅苦しいものではなく、それどころか主人公が成長していく過程での悩みや迷いには共感できるので、キリスト教徒ではない方、聖書が身近なものと感じない方にも一度読んでもらいたい一冊です。私はこの本に出会ったことで、自分を見つめなおす機会を得ました。そして、迷ったときや、物事が上手くいかないことがあるときには今でもこの本に助けられています。人はときに自分の人生に大きく影響を与える本と出会います。この秋、皆さんがそのような本と出会い、心がより豊かになることを願っています。

みなさんに読んで欲しい本



最近「本」読んでますか？

法学部法律学科4年
榎崎 雅衣子

何年も前から言われている事だが、今の若者は本を読まなくなっている。最近の新聞社の調べでは、1ヵ月に1冊も本を読まないという子は、小学校全体では約1割、中学校全体では約5割、高校全体では約6割にも及ぶという。当然と言えば当然の流れだ。生まれた時からカラーテレビがあり、マンガがあり、ゲームがあり、そして現在は携帯電話がある。頭を使って本を読むよりもずっと簡単で楽しいそれらに夢中になるのも頷ける。私も、そんな読書離れした若者のひとりだった。

私が以前より読書するようになったのは、大学に入学してからだ。受験も終了し、時間に余裕ができ暇潰して読んで伊集院静さんの著書「受け月」にはまってしまったのがきっかけだ。私は人に「本を沢山読んで偉いよね。」と言われる事がある。しかし、私が読んでいるのは、経済や政治といった難解な本ではない。自分の頭で理解できる範囲の、私を楽しくさせたり元気づけたり、時には悲しくさせたりする本だけなのだ。だが、内容の薄いものでは決してない。重松清さんの本からは、家族という繋りの脆さ、不思議さ、温もりそして残酷さを、篠田節子さんの本からは、女性の目から見る結婚や出産、仕事の難しさを改めて感じとった。また、佐野真一さんの本により、現代社会の裏に隠された闇の部分や、出版業界に忍び寄る危機などを初めて知り、目からうろこが落ちる思いをした。

難しい本を読んでいるだけがいい事ではない。自分の好きな時間に好きなだけ、好きなものを読むことができる読書の素晴らしさを知っている事が、私は素敵な事だと思う。中学・高校時代は、部活や塾、受験勉強等で読書をする時間がないだろう。社会人になってからは、多忙になり仕事上必要な本ぐらいしか読めなくなる。つまり、大学で過ごすこの4年間は、人生の中でも貴重な読書タイムなのだ。幸運な事に、大学には立派な図書館があり使い放題だ。秋の夜長、飲み会の“オール”ではなく読書の“オール”をたまにするのも、いいのでは？



大切なもの

—セクシュアル・ハラスメント防止の手掛り—
文学部外国語学科フランス語専攻卒業生
立田 健太郎

2000年10月から本学でもセクシュアル・ハラスメント防止に対する取り組みがなされています。女性と男性が対等な関係で向き合うことのできるような環境作りは学校や社会など大きな共同体からサークルやクラブ、クラス、家庭、友達同士など規模の小さい集団にもますます必要となります。そこで、女性と男性がどのようにこれからの女性像、男性像を思い描いてゆけばいいのかその手がかりとなるような本を数冊紹介します。

・『愛と性の美学』（松本侑子著）

性について様々な角度からわかり易くエッセイ形式で綴った『赤毛のアン』の訳者としても有名な著者の一作。女性にまつわる諸問題に関心がある人の初読にはお薦めです。

・『第二の性』（シモーヌ・ド・ボヴォワール著）

「長い間女性についての本を書くことをためらってきた」世界的なフェミニストである著者不朽の名作。大長編なので第三部・第四章の「自由な女」（人文書院 生島遼一訳）、第四部・第十四章の「自立した女」（中島公子・加藤康子監訳）だけでも一読すると「はっ！」と気づかされるようなことも散見されます。

・『セクシュアル・ハラスメント』（宮淑子著）

日常的に確実に問題化している《セクハラ》を直接取材し、マスコミの報道では明らかにされない「事件の真相」にせまるルポルタージュ。情報社会に押し流されず、被害者の「微かな、消え入りそうな叫び」を「真実」というメガフォンを通して語りかけます。

・『セカンド・レイプ』（落合恵子著）

性的被害を受けた被害者が知人や恋人、親そして社会からも「一度ならずも」心無い言葉や態度を浴びせられる《セカンド・レイプ》。「臭いものには蓋」をしない社会的告発ともいえる著書。

・『カラーパープル』（アリス・ウォーカー著）

女性問題＝人権問題と解されない不毛な世界で「何事も、この現在から偶発的に生まれたものではない」と人種問題、性差別を直視したピューリッツァー賞受賞の珠玉の作品。文学を愛好する方ならこの作品から読んでみてください。

セクシュアル・ハラスメントは女性だけの問題ではありません。女性と男性が肩肘張らない環境作りに努めるために男性の方々にも是非手にとって読んでほしいものばかりを紹介しました。「大切なもの」が目に見えてくるはずです。



日経新聞等の経済記事の利用法

経済学部教授 相模 裕一

日経新聞等の経済記事の利用法としては、短期的利用法、中期的利用法、長期的利用法の3つが考えられます。

まず短期的利用法としては、日々の株価、為替レートの動向、月例経済報告等を知ることです。経済学部の学生諸君は、演習や授業の中で、株価や為替の話題にふれることがあるでしょう。日々の株価や為替の動向を知り、できたら日々の変化をグラフ化してみるとおもしろいと思います。特に月次データや月例経済報告との関係を考えながら、グラフ化することで、経済的センスを養うことができるでしょう。これからの経済社会では、リスクの自己管理が要求されます。リスクの自己管理には予測力が必要です。予測力は経済的センスを磨くことで高めることが可能です。ですから経済学部の学生だけでなく、他学部の学生も、手近な材料として株価や為替の記事で経済的センスを磨くことが望まれます。

次に、中期的利用としては、四半期の様々な経済指標から半年後ないし一年後の経済の動向について重要な情報を得ることです。もっともこれはある程度経済学を学習していないと無理かもしれません。経済学部の3年次や4年次の学生諸君にとっては、よい演習になると思います。また、著名な経済学者の論説は、今後の経済動向や政府の対応を知るうえで役に立つと思われる。何人かの経済学者の論説を整理しておく、日本経済の現況が見えてきます。そして就職面談等で役に立ちます。

最後に、長期的利用法としては、過去の時代状況を知る資料として、5年、10年のデータの蓄積が、大変貴重な資料となります。これは、卒論等の論文作成の上で、様々なヒントを示唆し、論証資料とも成りえます。おもしろい利用法として、ここでは野口悠紀雄先生の『バブルの経済学』の一部を紹介しましょう。

野口先生は、この著書の中で、株価と地価が高騰するバブルの最中、「バブルは認識されていたか」という問題に注目し、日本経済新聞より、以下の資料を作成しました。そこでは、1985年から

1992年の8年間の間、日本経済新聞に現れた「バブル」という言葉を含む記事の件数を数え上げています。

日本経済新聞に現れた「バブル」関連記事

年	1985	1986	1987	1988
件数	8	3	1	4
年	1989	1990	1991	1992
件数	11	194	2,546	3,475

この表より、バブルが膨張しつつあった89年頃までは、「バブル」という言葉はあまり使われておらず、91年から爆発的に増えていることが分かります。これは、90年の株価と地価の下落により、バブルの認識が急速に広まったからです。実は、ほとんどの人々は、バブルの絶頂にあってバブルを認識していなかったのです。

このように日本経済新聞の一語に注目することで、時代状況を知ることにも可能です。

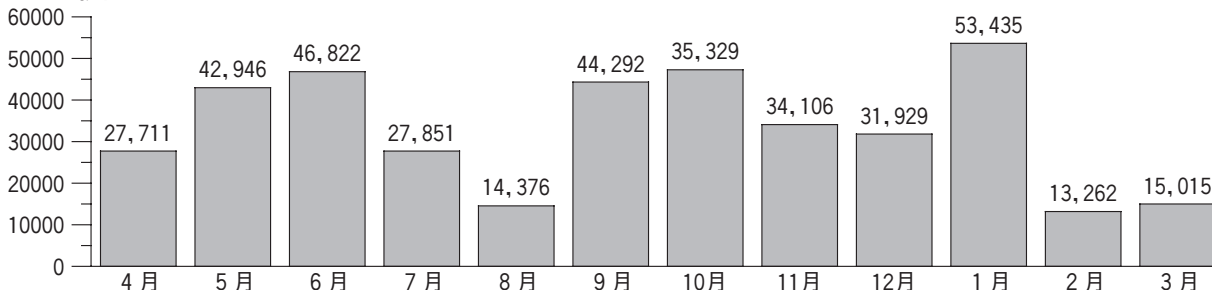
経済の固い議論は嫌いでも車好きなら、そこから経済が見えてきます。今一番売れているのはどんな車だろうか？トヨタ、ホンダ、日産のシェアはどの位だろうか？実は新車の登録台数は重要な経済指標、景気動向指標です。自分の関心のあるデータをメモしたり、ファイルしたりすることで経済的センスを養うことは可能だと思います。

皆さんも、経済記事に触れ、経済センスを養いながら、その記事をレポート、論文等で活用してみてください。



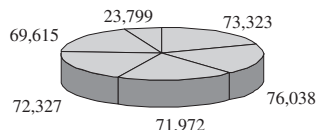
◆◆◆ 2001年度入館者および貸出統計 ◆◆◆

入館者統計 (月別/単位:人)



入館者統計 (曜日別/単位:人)

月	火	水	木	金	土	合計
73,323	76,038	71,972	72,327	69,615	23,799	387,074



入館者統計 (時間別/単位:人)

開~10	10~11	11~12	12~13	13~14	14~15	15~16	16~17	17~18	18~19	19~20	20~21	21~閉	合計
25,019	51,899	30,974	51,846	48,192	51,476	44,696	38,709	21,501	14,079	6,770	1,909	4	387,074

入館者統計特定日別比較表 (単位:1日・人)

4月新学期(4/13)	2,130	
夏季休暇中(7/23)	754	
夏季休暇中(土曜日8/11)	361	
前期試験期間中(9/11)	3,695	
後期授業期間中(10/11)	1,499	
後期試験期間中(1/15)	3,071	
春季休暇中(3/12)	619	

貸出統計 (月別/単位:冊)

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
4,327	6,073	8,275	5,406	4,121	8,204	7,252	7,276	7,940	11,043	2,317	1,591	73,825

貸出統計 (十進分類別/単位:冊)

000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	雑誌	その他	冊数計	(人数計)
2,554	8,433	4,807	28,060	2,492	1,929	2,090	3,105	3,648	11,597	670	4,440	73,825	37,908

高率貸出統計 (ベスト5)

順位	回数	書 誌・著 者
1	37	ハリー・ポッターと秘密の部屋/J.K.ローリング作:松岡佑子訳
2	36	キリストに従う/ボンヘッファー著:森平太訳
3	35	アメリカ史/有賀貞[他]編
4	32	賀川豊彦の生涯と思想:キリスト者・社会運動家・平和活動家/河島幸夫著
5	30	金持ち父さん貧乏父さん:アメリカの金持ちが教えてくれるお金の哲学/R・キヨサキ、C・レクター著:白根美保子訳

※最近の動向については、目録検索の「貸出の多い本一覧」を参照してください

〈参考①〉開館日統計 (月別/単位:日)

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
24(4)	23(3)	26(5)	23(4)	24(4)	21(3)	26(4)	23(2)	19(4)	21(3)	18(3)	24(5)	272(44)

()内数は土曜日

〈参考②〉受入冊数統計 (単位:冊)

図 書			製本雑誌			合 計		
和書	洋書	合計	和書	洋書	合計	和書	洋書	合計
12,669	5,544	18,213	1,028	1,844	2,872	13,697	7,388	21,085

入館者統計から窺えることは、空いている時間帯を上手に利用していただきたいということと、試験期間ばかりでなく日常的に図書館を利用する習慣を身につけて欲しいということです。参考②にあるように、年間約2万冊の図書資料が受け入れられています。図書館には、受け入れられたばかりの本を自分が一番最初に読む楽しみや沢山の貸出記録が残されている本にその人たちがどう読んだのかと想いを巡らす楽しみがあると言えるかと思えます。

ある雑誌に『学生時代は吸収する頭の良さ、社会人となってからは正反対で出す頭の良さが必要である。』と書いてあるのが眼につきました。学生の皆さんは、在学中により多くの図書資料に接して、社会人となってからの力の源としていただきたいと願っています。

お知らせ

◎12月～3月休館日

12月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24 31	25	26	27	28	29

12月25日(水) キリスト降誕祭
 12月27日(金) 正午～1月5日(木)
 年末年始休暇
 2月10日(月)～14日(金)
 大学入学試験



◎卒業論文用図書の貸出および卒業年次生の貸出について

卒業年次生は、卒業論文作成に必要な図書を通常の貸出とは別に長期貸出ができます。冊数は5冊、期間は30日間です（更新が1回できます）。貸出カウンターで「卒論用」と申し出てください。

なお、卒業年次生は、卒業年度の3月1日以降は図書を借りることはできません。また、貸出中の図書は、2月末日までに返却してください。

◎卒業生の特別利用について

卒業生は、下記の必要書類を揃え、カウンターで手続をすると図書館を利用することができます。

- 卒業証明書 1通
 教務課で発行しています（100円）
 写真（3cm×2.4cm） 1葉
 3ヶ月以内撮影の証明書用写真
 手続料 100円/1ヶ月（最長6ヶ月、更新可）

◎春季休暇期間の長期貸出について

受付開始 1月22日(水)
 返却期限 4月3日(木)
 （卒業年次生は2月末日）

貸出冊数 5冊以内

◎オンライン検索の紹介

主に雑誌記事を探したり、洋雑誌本文を見ることが出来るデータベースを図書館のホームページ

から利用できます。

(<http://www.seinan-gu.ac.jp/library>)

1. NACSIS-IR（約80のデータベースを提供）
 雑誌の記事や論文の索引を探す場合に利用すると便利です。代表的なものに雑誌記事索引があります。
2. Proquest
 洋雑誌約1,600タイトルの全文、2,500誌の抄録を見ることができます。主題からの検索、雑誌名からの検索と幅広い検索ができます。

編集後記

土門拳の『腕白小僧がいた』（小学館文庫）に筑豊の炭坑が閉山した昭和34年頃の、小学校の教室でお昼に弁当を食べている風景写真がある。その中に絵本を見ている4人の子どもがいる。弁当を持って来られない子どもたちである。絵本から決して視線を外さない。外せば隣の子の弁当が目に入り、弁当なしの惨めさを味わうからである。同時代を筑豊で過ごした小生としては心が痛み、胸を打つ。活字や言葉の本だけでなく写真集、絵画集などのビジュアル本も図書館にあります。読書の秋、感動の一枚、一冊に巡り逢いましょう。（田）